

福祉のまちづくり プランってなに？

A

住民同士がそれぞれの思いや知恵を出し合いながら、地区内の「福祉のまちづくり」を考えます。話し合
う中で共通の認識や目標をつくり、具体的な住民活動
を計画として明らかにするものです。

なぜ必要なの？

A

誰もが暮らしやすいまちとは「公的なサービス」と「住
民同士の助け合い」の両方が充実しているまちです。
昨今の福祉課題に対して、公的なサービスだけで全
ての解決はできません。地域にはすでに住民同士の様々な助け
合いの活動がありますが、それらを計画的に進めるために、また
足りない仕組みを補うために、地区全体として「住民同士ででき
ること」を計画にまとめることで、誰もが暮らしやすいまちづくりに
繋がります。

どうやって 作ったの？

A

県地区の住民の代表者で「地域福祉推進委員会」
を立ち上げ、米子市社会福祉協議会と一緒に策定し
ました。住民意識アンケート調査などで寄せられた福
祉課題をもとに話し合いを重ね、計画のテーマを「安心安全」
「防災」「居場所づくり」「支援活動」「ふるさと教育」「人材発掘」
の6点に決定し、3つの分科会にて取組内容を決めました。

県地区のみなさんへのお願い

誰もが暮らしやすいまちをつくるためには、この地区に暮らす一人ひとりの気持ちが大切です。本書を手にと
られたことをきっかけに、地域の活動に少し目を向けてみてください。もしかしたら、あなたが「あたりまえ」と
思っている日常の景色のなかに、県地区のために頑張っている人や活動の存在に気づくかもしれません。そうし
た活動に関心をもっていただき、ここに書かれている取組みに協力していただければ幸いです。

表紙のイラストは、県地区にお住まいの井上和典（いのうえかずの
り）さんに描いていただきました。県地区を象徴する風景や文化財を
組み合わせた構図を考えてくださり、県地区の素晴らしさが皆さんに
伝わるよう、心を込めて描いてくださいました。

※本書に掲載しているイラストの無断複写・転載を禁じます。

県地区 福祉のまちづくりプラン

策 定 県地区地域福祉推進委員会

連絡先 県公民館 ☎0859-27-1010

編集発行 社会福祉法人 米子市社会福祉協議会

発行年月 令和4年3月

県地区福祉のまちづくりプラン

(第2次 県地区地域福祉活動計画)

令和4年度～令和8年度



高田家住宅

伯耆安綱

K.inoue

県地区地域福祉推進委員会／社会福祉法人 米子市社会福祉協議会

見つめ愛

安心安全



方向性

よりよい住環境づくり

- 課題
- 限られた路線しか除雪されない
 - 除雪協力に温度差がある
 - 地域住民同士の繋がりが不足している

取組内容

除雪協力体制の構築

5年後の目標

除雪協力体制が確立され、効率よく除雪できる

地域交流イベントの活性化

5年後の目標

イベントを通じて住民同士の交流が促進される

方向性

通学路等の安全

- 課題
- 通学路が危険（暗い、草が生えている、危険家屋がある等）である
 - 不審者の情報があり心配
 - 清掃や除草作業に協力を得られない家がある

取組内容

学校区内の危険箇所の把握と情報発信

5年後の目標

危険箇所が無くなり安心してまちを歩ける

通学路等の清掃活動の推進

5年後の目標

美化意識が高まり、「きれいなあがた」になる

助け愛

防災



方向性

支援者情報の共有

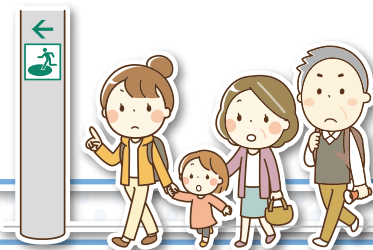
- 課題
- 空き家やひとり暮らしの家が分からない
 - 地域にどんな人が住んでいるか分かるといい

取組内容

自治会ごとの支援愛マップ作成促進

5年後の目標

支援愛マップが全自治会にでき、情報が更新される



方向性

防災啓発

- 課題
- 訓練のマナー化
 - どこに避難していいか分からない
 - 災害に対する個人の意識が低い

取組内容

防災訓練の実施及び推進

5年後の目標

自主防災組織連絡協議会が主体となり、計画的に防災訓練が実施される

防災勉強会の実施と情報発信

5年後の目標

「災害に強いあがた」が構築される

あなたの笑顔とあがた

～あがた民の あがた民による あがた民のため～

ふれ愛

居場所づくり



方向性

子ども(多世代)の居場所づくり

- 課題
- 近所の人と出会う機会が少ない
 - コロナ禍で世代が違う人との交流が減っている
 - 子どもの遊ぶ場所が無い

取組内容

体験型イベントの実施

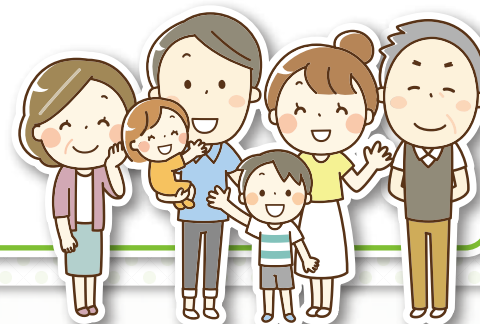
5年後の目標

イベントをきっかけにリーダーの育成と出会いの場が広がる

子育て役立ちマップの作成

5年後の目標

多くの人に活用され定期的に更新される



支え愛

支援活動



方向性

買い物支援

- 課題
- 買い物が不便
 - 地元の農作物が買いたい
 - 交通が不便

取組内容

買い物手段の拡充

5年後の目標

買い物手段が増えて活用される

方向性

相談支援

- 課題
- どこに相談していいか分からない
 - 問題を抱えている人が発信しにくい

取組内容

研修会（意見交換会）の実施

5年後の目標

必要とされる研修の場が増える

相談できる場づくり

5年後の目標

誰もが身近に相談できる人がある

の笑顔

めの活動～

郷土愛

ふるさと教育

方向性

風習・伝承

- 課題
- ◎コロナ禍の為、行事ができていない
 - ◎情報発信が不充分

取組内容

- | | | |
|-----------------|--------|-----------------------|
| 地域独自の風習の記録を作成する | 5年後の目標 | 伝承をもっている自治会を調査し、記録を残す |
| 風習・伝承の情報発信 | 5年後の目標 | 情報発信を定期的に行う仕組みができています |

方向性

文化財や歴史

- 課題
- ◎教育する場がない
 - ◎教育するような資料がない
 - ◎情報発信が不充分

取組内容

- | | | |
|----------------|--------|-----------------------|
| 文化財や歴史の資料を作成する | 5年後の目標 | 目的に合わせた資料を作成する |
| 文化財や歴史の情報発信 | 5年後の目標 | 情報発信を定期的に行う仕組みができています |

あがたは6つの愛を育てます



あがたぬき げん太くん

スローガンについて

このプランのスローガンは、地域福祉推進委員会で案を出し合うと共に一般公募も行いました。令和3年11月の公民館祭にて、出された案の中から人気投票を行い、最も票を獲得した「あなたの笑顔とあがたの笑顔」に決定しました。

イメージキャラクターについて



あがたぬき げん太くん

県地区福祉のまちづくりプランを策定する中で、イメージキャラクターが誕生しました！

原案者は県地区地域福祉推進委員である高橋由美子さんです。原案をもとに中村友香さんがパソコンで描いてくださいました。今後、地域の様々な活動の中で登場します。お楽しみに!!

県地区はSDGsに取り組めます

貧困、紛争、気候変動、感染症。人類は、これまでになかったような数多くの課題に直面しています。このままでは、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなると心配されています。そんな危機感から、世界中のさまざまな立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、2030年までに達成すべき具体的な目標を立てました。

それが「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」です。

このプランの内容とSDGsとの関連について箕蚊屋中学校の生徒、地域福祉推進委員会分科会メンバーでそれぞれ検討しました。県地区では未来のために、SDGsを意識した持続可能な福祉のまちづくりを目指して取組を進めていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



誘い愛

人材発掘

方向性

お役立ち人材の把握・活躍の場

- 課題
- ◎人材を見つけきれっていない
 - ◎人材が広く知られていない
 - ◎人材の活躍の機会が不充分

取組内容

- | | | |
|-----------|--------|-------------------------|
| 人材・ニーズの調査 | 5年後の目標 | 全自治会のニーズ把握ができています |
| 活躍の場の充実 | 5年後の目標 | 活用できる場が把握でき活躍の機会が充実している |

